

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・ 事業所 の特徴	慣れ親しんだ地域で安心した暮らしを続ける為の介護（生活）をお手伝いする事を理念とし、おおむね半径3キロ内にお住まいの方の利用が多数を占めています。小規模の隣には地域交流スペースやキッズルームなど地域の方も利用して頂けるスペースもあり、地域との繋がりを大切にしています。					
事業所名	小規模多機能型居宅 介護千手	管理者	矢代 裕美							

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	0人	1人	1人	0人	3人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・職員間の情報共有不足の改善方法として、申し送り、連絡ノート、暮らしの情報シートを活用して情報共有に努める。	情報共有の方法として、日々の特記事項を分かりやすく記入・確認できる用紙を新たに作成。ひと目で様子が確認できるようになつたが、重要でない情報も記入されている事もあり、記入する内容について今後検討が必要。	・限られた時間の中で、分かりやすくひと目で確認できる用紙を使用する事が必要。	・職員間の情報共有の為の用紙、記入する内容についての検討を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	・現在設置している看板について、天気の良い日には外に設置しているが、悪天候の際はどのようにしていったら良いか検討を行う。	・天候の良い日や、千手カフェ・行事等ある日には道路側に看板を設置。またセンターの玄関にも看板やチラシを設置するようにしている。	・センターを訪れやすい工夫がなされていると思う。 ・家庭的な雰囲気になっていると思う。 ・センターに来ても、玄関に職員が誰もいない事があり、初めて来た人は戸惑うと思う。	・職員がいなくても玄関から中に入りやすい雰囲気作りを検討する。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域の方を見かけたら、聞こえるように挨拶を行う。 ・地域への貢献活動を実施し、地域住民と接する機会を増やす。	認知症についての勉強会や地域の方同士が話し合う機会として、月に1回千手カフェを開催。その他行事等行っている。 今年度より行事以外でもボランティアの方が来て下さりお茶出し等の活動をして下さるようになった。	・相談に来られる方は地域包括支援センターやケアマネからの紹介が多く、まだまだサポートセンターの存在が分からぬ人も多いのではないか。	・サポートセンターの存在を知る人が増やせるよう、行事や千手カフェの取り組みを継続していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・利用者一人ひとりの好みや今までの生活状況を確認する為の暮らしの情報シートを見直し、再度一人ひとり作成する。	・暮らしの情報シートについて、見直しを行っている段階であり、再度作成するまで行う事ができなかった。	・利用者以外の近所の方についての関わりは難しい。千手カフェ等を通じて情報収集を行う事が良いと思う。	・生活に不安のある利用者について、地域の民生委員やご近所等と情報共有を行っていく。 ・地域包括支援センター、民生委員と協力し、地域の心配な方の情

				報共有を行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進会議に出席しない職員については、会議への興味が少ない部分がある為、事業所の取り組みを説明する職員を交代でつける。	・業務の都合により複数の職員を運営推進会議に出席させる事ができず、職員への説明や会議内容の共有だけで終わってしまった。	・運営推進会議で事例検討することはなかった。地域包括支援センターと連携し、支援が必要な方について情報をやり取りを行っていきたい。	・事業所の取組みについて、運営推進会議で説明する機会を作る。
F. 事業所の防災・災害対策	・運営推進会議で防災計画について説明する機会を作る。	・防災計画の見直しを行ったが、運営推進会議で説明するまでは至らなかった。	・事業所が町内の避難所となっており災害が発生した時には頼りにしたい。	・防災訓練に地域の方からも参加して頂く事や回覧等により、福祉避難所である事を地域の方に知って頂く。